

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 26 章 17~35 節>

①イエス様殺害は人間が計画したこと？ 神様が計画されたこと？

ガルシア・マルケスの小説に、『予告された殺人の記録』というのがあります。殺されるのが分かっているのに、誰もそれを止められずに刻一刻その時が近づいて行く様子が描かれた小説です。イエス様の受難の記事と重なりました。しかし、この両者には決定的な違いがあります。イエス様殺しも確かに人間が計画実行していく「人間の出来事」ですが、人間による悪しきイエス様殺しの実行自体がさらに大きな恵みの出来事—ご自身の独り子を殺した人間の罪を赦される「神様の出来事」—につながっていくということです。ここでもイエス様は、「わたしの時が近づいた」(18)と言われて過越(先週、説明!)の食事の用意をさせられ、また、「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」(28)という、弟子たちも初耳の驚くべき言葉を添えて杯のぶどう酒を弟子たちに飲ませられたのです。「人間の罪の出来事」を通して、さらに大きな「神様の恵みの出来事」がなされたのだということを考えなければなりません。

②人間の愚かな姿 — 私たち自身の姿! それを赦して下さる神様!

「あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている」(21)とイエス様に言われ、弟子たちは、「主よ、まさかわたしのことでは」と「代わる代わる」言い始めた(22)とあります。また、ペトロは自信たっぷりに、「たとえ、ご一緒に死ななければならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」(35)とイエス様に言いましたし、「弟子たちも皆、同じように言った」(35)とあります。なんだかこれを聞く私たちの方が恥ずかしくなります。日本人初の牧師の按手を受けた奥野昌綱が「自分はペトロだ」という説教をよくしたことを先週の創立記念愛餐会の中で聞きました。私たちは聖書から自分の愚かさを知らされますし、同時に、その罪を赦して下さる神様がおられることをイエス様の十字架の死の出来事から知らされるのです! 感謝!